

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Orange			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 15日		～	令和8年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53人	(回答者数)	30人
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 25日		～	令和8年 1月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数)	10人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	季節・行事・外出など、経験の機会が豊富 「イベントや外出など、季節に合わせた経験ができる」「楽しませてくれる」という好意的なご意見もいただきました。 Orangeでは、活動を固定化せず、四季や学期の流れに合わせて経験の幅が広がるよう、年間計画を組み立てています。	年間行事や季節に応じた活動、外出等を取り入れ、固定化しないプログラムを実施している。児童の状態や集団の様子に応じて活動内容を調整し、無理のない形で経験の幅が広がるよう工夫している。また、写真付きの報告等を通じて、活動の様子を家庭に伝えている。	各活動のねらいを5領域と関連づけて簡潔に示し、「楽しさ」と「成長の意味」が保護者にも分かるようにする。活動後の振り返りを職員間で共有し、次年度の活動改善につながる仕組みづくりを進めていく。
2	安心感(「安心して通える」「楽しみにしている」という声) アンケートでは、「子どもが安心して通えている」「楽しみにしている」「職員が共感的で温かい」という評価を多くいただきました。 私たちは、支援を“技術だけ”で行うのではなく、まず 安心して過ごせる土台を整えることを大切にしています。安心があるからこそ、子どもは挑戦でき、失敗しても戻って来られます。	利用児が安心して通所できることを最優先に、一人ひとりの特性理解を前提とした関わりを行っている。情緒面への配慮を重視し、職員が共感的に関わることで、子どもが「ここなら安心できる」「通うことを楽しみにできる」雰囲気づくりを意識している。急な体調変化や予定変更にも柔軟に対応し、支援の一貫性が保たれるよう職員間で情報共有を行っている。	「安心して通える理由」をより分かりやすく保護者に伝えるため、支援の意図や関わり方の共通ルールを整理し、見える形で共有する。不安や変化のサインを早期に察知できるよう、面談や連絡帳、短時間の電話連絡等を活用し、安心感が継続・再現される体制づくりを進めていく。
3	個別支援計画と日々の支援の整合 「子ど「支援が専門的」「計画に沿っている」といった評価も多かったです。 Orangeでは、支援を“その場の対応”だけにせず、次の流れを大切にしています。アセスメント(理解)→ 計画(目標)→ 実施(支援)→ 共有(振り返り)	アセスメントに基づいた個別支援計画を作成し、計画→実施→振り返り→共有の流れを大切にしている。個別支援と小集団活動を適切に組み合わせ、児童の発達段階や特性に応じた支援設計を行っている。また、職員間で計画内容や支援方針を共有し、必要に応じて専門職(ST等)とも連携しながら支援の質を高めている。	個別支援計画や支援内容について、どの職員でも同じ水準で説明できるよう、説明用の資料やガイドラインを整備する。また、計画の途中経過や支援の進捗を短い周期で保護者へ伝え、支援の見通しが共有できるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援・保護者交流・きょうだい支援が十分に見えにくい	個人情報保護や児童特性への配慮、感染症対策、運営負担等の理由から、家族支援や交流活動の実施が慎重になり、結果として「実施されていない」「分からない」という印象につながっている。	交流イベントとして一律に実施するのではなく、情報提供・個別相談・希望者による小グループなど、段階的で選択可能な支援として整理する。きょうだい支援については、交流の前段階として理解支援の資料提供や相談導線を整備する。
2	計画・制度・支援意図が伝わりにくい	個別支援計画や制度に関する説明に専門用語が多くなりやすく、説明内容や理解度が担当職員や保護者によって差が生じている。また、保護者の関心や理解のスピードが多様であることにに対し、説明の仕組みが十分に整理されていない点が要因と考えている。	計画説明の標準化(短時間版・詳細版の説明資料作成、用語の言い換え表、よくある質問集)を進める。目標や支援内容、家庭との連携を一枚で示すサマリーを活用し、計画の理解と納得につなげる。
3	連絡・返信の速度が体感的に分かりにくい	情報共有自体は行われているものの、連絡の受付から返信までの流れや目安が明確でなく、保護者にとって「今どうなっているか」が見えにくい状況が生じている。連絡手段が複数あることも要因の一つである。	相談・連絡の一次受けルールや返信目安を明確にし、「確認中」「〇日までに回答予定」といった中間返信を徹底する。定型文や記録テンプレートを整備し、業務の効率化によって職員の余裕を確保する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 Orange

公表日 2026年2月19日

利用児童数 53

回収数 30

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	26 86.7%			4 13.3%	保護者が施設に行く機会が少ないため、 分かりにくい部分がある。	気になる事があればお気軽にご相談、お 声がけください。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	21 70%			9 30%	同上	気になる事があればお気軽にご相談、お 声がけください。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	22 73.3%	1 3.3%		7 23.3%	同上	気になる事があればお気軽にご相談、お 声がけください。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	25 83.3%			5 16.7%	同上	気になる事があればお気軽にご相談、お 声がけください。
適 切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	29 96.7%			1 3.3%		高い評価をいただきましたが、わかりづかった点 もあり深く受け止めております。児童の特性や、そ れに合わせて必要な支援をしていることについて、 どの職員も説明できるよう特性理解について徹底い たします。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	27 90%			3 10%	活動内容についての説明は利用の都度聞 かせてもらっているが、それがどうい 意図の支援なのかまでは理解できていな い。	その日の活動を記録した連絡帳の配布の 他に、月に一回製作しているおたよりも 配布しています。気になる事があれば気 軽にご相談ください。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されて いると思いますか。	29 96.7%	1 3.3%				相談支援事業者様、もしくはご家族様が 製作された計画書を元にOrangeでの支援 内容・目標を策定しています。今後も要 望をお聞きして支援に反映させていきま す。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの 「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支 援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適 切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いま すか。	27 90%	1 3.3%		2 6.7%	計画の説明が分かりにくい部分がある。	説明が不足していた点について、重く受け止 めております。計画についてご質問があつた ときに、どの職員もこたえられるよう職員の 教育や、よりわかりやすく説明できるようい たします。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	29 96.7%			1 3.3%	計画に沿った支援が行われているのか、 分かりにくい部分がある。	個別支援計画書について不満の声が出た ことについて、重く受け止めなければな りません。支援の透明性については送迎 の際にご説明を行う、電話で報告するな ど、対応を考えていきます。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いま すか。	28 93.3%	1 3.3%		1 3.3%		四季折々、学期毎に合わせたイベントを 企画・実施し、児童たちが様々な経験が できるよう支援を行っていきます。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会 がありますか。	14 46.7%	3 10%	2 6.7%	11 36.7%		個人情報保護の兼ね合いや、児童の障害 特性の配慮の関係で難しいところもあり ます。児童の安心やわかりやすさは最優 先で、外部行事への参加等検討してい きます。
保 護 者 へ の	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	30 100%					高い評価をいただきました。今後も継続 して、わかりやすい説明ができるよう努 めます。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされま したか。	28 93.3%	1 3.3%		1 3.3%		高い評価をいただいておりますが、わからないとい う声をいただいたことについて反省しております。定 期的に電話やノート等で支援の方向性の確認がで きるようにいたします。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われています か。	12 40%	3 10%	6 20%	10 33.3%		個人情報保護の兼ね合いや、児童の障害特性の配慮 の関係で開催は難しいところがあります。研修会の 情報提供等は、情報が入りお子様の成長段階や特性 に合わせて随時できればと考えております。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況に ついて共通理解ができていると思いますか。	30 100%					高い評価をいただきました。現状に満足 せず、これからもご家庭と連携して支援 に臨みます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	28 93.3%	2 6.7%				送迎時や連絡ノート、メール等で適宜ご相談 にお答えするようしています。子どもたちの 成長に合わせて今後の見直しをお伝えした り、ご相談がないときでも保護者や児童が安 心して生活できるよう支援してまいります。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	29 96.7%	1 3.3%				連絡ノートでのやり取りが主となり、伝わりづらい 状況になってしまっているかもしれません。ご家族 が孤独感を感じずに済むよう、連絡ノートの使い 方について改めて職員間で情報共有いたします。小 さな不安にも気づけるよう、保護者とのコミュニ ケーションをより密に取っていきたく思います。

説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4 13.3%	7 23.3%	8 26.7%	12 40%		個人情報保護の兼ね合いや、児童の障害特性の配慮の関係で父母の会の開催は難しいところがあります。必要という声があれば今後開催を検討していきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	24 80%	3 10%		3 10%	迅速さという点において、他事業所と比べると遅く感じる	保護者様からご相談いただいた内容は即座に共有させていただき、担当者に報告、迅速にお返事させていただきます。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	30 100%					連絡ノートでのやり取りや、毎日活動の終わりに写真付きの活動報告書を保護者へ配布しております。高い評価をいただきましたので、今後も継続してまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	30 100%					毎月配布するお便りで活動報告や緊急時の連絡手段についてお知らせしています。高い評価をいただき、今後も継続してまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	30 96.7%			1 3.3%		高い評価をいただきましたが、今年度は書類の配布ミスが数件ありました。現在はチェック体制を多くする等でミスが減りましたが、継続して改善に努めます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	25 83.3%	1 3.3%		4 13.3%	マニュアルは拝見したことがありますが、訓練については実施されているか分かりません。	避難訓練は法令で定められている年2回の総合避難訓練を中心に、様々な状況を想定した訓練を行っています。訓練の様子についてはおたよりに掲載していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	24 80%			6 20%	同上	避難訓練は法令で定められている年2回の総合避難訓練を中心に、様々な状況を想定した訓練を行っています。訓練の様子についてはおたよりに掲載していきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	28 90%			3 10%		個別支援計画書のご説明の際に、地震等災害時や緊急時における対応についてご説明しております。個別支援計画書について説明が不足しているお声があったので、こちらもわかりやすいご説明や訪問でのご説明をするようにいたします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	25 83.3%			5 16.7%	事故等が発生していない為、分からない	怪我のないようリスク管理を行い、情報を共有していきます。細心の注意を払って支援に取り組んでいきます。また、怪我、事故が発生した場合、速やかに必要な対応を行い、保護者様への報告、医療機関との連携を行い、児童の負担を最小限に抑えられるよう支援を行っています。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	30 100%					高い評価をいただきました。今後も児童が安心して通所できる事業所づくりに励みます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	25 83.3%	5 16.7%			・課題をする活動が主体と感じることがあり、時折行き渋りがある。 ・自分時間を優先したいので出かける前は乗り気でない日もありますが、帰宅後は活動内容を楽しそうに話してくれま	ただ「課題をする」「訓練をする」のではなく、小さな「成功」「できた」ことを実感して、意欲的に取り組みができることを意識できるように支援を行っています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	30 100%					高い評価をいただきました。現状に満足せず、より良い支援を提供できるよう邁進します。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
Orange		令和8年 2月 19日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		児童発達支援と放課後等デイサービスの利用の部屋を分けて、児童や職員にも分かりやすく活動できるようにしている。	今後も継続して児童が活動スペースを間違えないように声掛けを行うこと、また、部屋の配置を視覚して伝えるようにすることを続けていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		個別に近い形で関われるように、職員を多く配置して手厚く支援を出来るようにしている。	配置だけでなく、専門的に関わることができるよう、職員の研修をおこなって、より、専門性を高めて関われるようにしていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	△		運動や行事を行う部屋、課題を行う部屋と、活動に分けて部屋を使用することで、構造化した空間を分かりやすいように用意している。	建物の入り口が階段から始まっているため、バリアフリーではない状況が続いている。建物を改築することの難しさを感じている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動の始まる前と、始まった後に活動を掃除をおこない、清潔な空間を保てるように努力している。	児童の成長もあり、少し狭さを感じる点があるため、時間で活動を分けるなど、配慮をしていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		パーティションを用意して、広い部屋の中に個別の空間が作れるように工夫して取り組んでいる。	机の使用や適切な高さの椅子の設置など、児童に合った道具の必要性を感じるため、購入を検討する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		曼荼羅チャートを取り入れることで、具体的な目標設定をすることで、足りない部分を職員間で把握して補うように努力している。	曼荼羅チャートの振り返りの部分で、次の目標設定を立てるときに、課題が持ち越されることがあるため、実現可能な目標の設定を細かく考える必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的な保護者アンケートから挙げた課題に対して、早急に対応していくように努力している。	今後もアンケートを活用して、定期的な見直しをおこない、業務の改善に努めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的な職員アンケートから挙げた課題に対して、会議の場を用いて共有して、早急に対応していくように努力している。	アンケートだけでなく、普段の業務の中においても、職員の声を救い上げられるようにして、改善をおこなっていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		他事業所の助言や書類の確認等、関係機関による外部の評価をもとに、業務の改善をおこなっている。	今後も、自己判断だけで運営を行わず、他機関の協力を得ながら、評価の見直しを継続しておこなっていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内でおこなっている研修で、専門性を高める機会を多く作っている。また適宜、外部研修の参加もおこない、職員の資質の向上に努めている。	研修後の振り返りをおこない、より、質の高い会議を行っていくこと、また、職員が研修を行う機会を作ること、更に質を上げていくように努力したい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページに5領域の課題を提示して、それに合わせてプログラムも載せています。	不足している部分があるかの見直しや、今後の支援の質の向上も考えていく必要がある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		定期的な懇談会で得たアセスメントをもとに、タイムリーな情報から5領域を絡めて計画の作成を行うようにしている。	計画の更新において、未達成のものがある際は、次の計画で達成するための振り返りをおこない、達成に導けるよう取り組む。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		保護者懇談のアセスメントをもとに計画案を用いて、施設内会議の中で計画の内容を確認・検討を行うようにして、情報を共有できるようにしている。	現状の、会議や支援の検討だけに満足せず、より、児童の将来や課題に向かって取り組める支援の方向性を考えていける様に努めていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画をもとに、支援をおこなっていけるように職員の周知をおこない、情報の共有をおこなえるように取り組んでいる。	支援の方向性が日々の関わりの中でずれていく時には、修正できるように、現状の支援の把握を行う施設会議で、情報共有する場があるため、今後も活用していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化検査や、観察記録をとるといったことで、児童の状況把握をおこなえるように取り組んでいる。	より良い方法がないか、現状に満足せずに新しい手法を取り入れていくことも考えながら進めていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		アセスメントをもとに、本人や保護者の意見を加味しながら、支援の方向性を考えるように努めている。また、移行支援においても、施設内での支援に満足せずに、支援が地域の現場に返っていくように、計画に盛り込んで取り組みを進めるようにしている。	支援の方向性が本人にとって正しいかの検証や、本人、家族、移行する地域が望んでいるものの検討をおこない、より具体的に支援に盛り込めるように会議の場で考えることを、再度確認していく。

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		各部会等、担当を設けて、企画・計画を立てることで、色々な行事や運営をおこなえるように努めています。	企画ごとに見直しをおこない、次の企画や計画に反映して、年々バージョンアップしていけるように取り組む。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎年行っている行事運営や外出等、固定化しないように活動をおこない、おこなったことの内容を職員間で共有できるようにしている。	運営や外出が同じにならないように、今後の取り組みも固定化しないように続けていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		必要な児童は個別の対応ができるように取り組み、課題として小集団の活動ができるようにグループ分けできるように取り組んでいる。	個別活動のままで終わらないように、成長や課題に応じて、小集団に移行したり、調子によっては個別に戻せるように、対応の出し入れができるように職員間で考えていくようにする。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		ビジネスチャットを用いて、当日の動向の確認や、各児童担当が取り組むことや気を付けることについて、全体で情報共有ができるように取り組んでいる。	情報の共有については、今後も抜けがないように取り組んでいくようにする。また、ビジネスチャットの活用で、今以上に連携を取りやすい方法がないか、模索していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	△		ビジネスチャットを用いて、児童の活動の振り返りや、状況の確認をおこない、次回の支援に繋げられるようにしている。	抜けや見落としがないかの確認をおこない、休みの職員にも共有できるように取り組んでいく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	△		個別ファイルで記録を残すことや、特記があった際に情報を共有できるように、記録に残すようにしている。また、施設会議で取り上げて検証できる時間を設けている。	検証・改善において、会議で検証して、取り組んだ支援を再検証することで、結果を折っていきけるように取り組みを継続できるようにする。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		懇談の場以外での保護者の聞き取りを行うようにして、支援計画の進具合や達成度合いを見ながら、計画の練り直しをおこなっている。	計画の見直しが遅れて、支援が停滞しないように、保護者の聞き取りを送迎の際に密に行うことで、素早い支援を行っていきけるように努める。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		「自立支援と日常生活の充実のための活動」「創作活動」「地域交流の機会の提供」「余暇の提供」をうまく組み合わせ、支援に落とし込むように努力している。	今後の支援において、複数組み合わせた支援が出来ているのか検証しながら、児童に合わせて、支援の方向を柔軟の考えていきける様にしていける。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		行事や余暇の活動と、児童の気持ちを尊重しながら、児童が決定しやすい選択肢の提示や、必要があれば、絵カードの提示をおこない、自己決定する力を育てていきける様に取り組んでいる。	児童の考えや選択、自己決定が現状で出来ているかを考えながら、よりその人にあった選択肢があるかを考えて関わっていきけるように努めていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者だけでなく、児童担当の職員も参加することで、情報の共有やより細かな状況の伝達ができるようにしている。	毎回の会議に、担当が参加することの難しさがあるため、担当からの聞き取りや児童の課題を取りまとめて、報告することが出来るように代替の方法も活用しながら会議を行えるようにする。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		相談支援員と密に連携を取りながら、必要があれば、各関係機関との連携が図れるように努めている。	家族の状況や各サービスとの関係性上、他サービスとの連携が難しい場合があるため、現状でできるサービスの連携を、常に模索しながら連携できるように意識していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校の送迎時や、保護者を通して、年間・毎月の行事の共有や、学校の情報を確認できるように日々の支援に組み込んでいる。	学校によって、連携が弱い部分があるため、積極的に連絡をとることや、保護者を通して連絡を図るなど、関係づくりを含めて努めていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	△		就学前に会議をおこない、小学校へ情報を持っていきける様に連携を取れるように取り組んでいる。また、必要があれば、サポートブックを作成して、情報の共有ができるツールの作成もおこなっている。	各関係機関の都合で、会議が行えず、情報の共有が薄くなってしまっているため、学校に直接連絡を取って共有をおこない、児童の情報を事前に知らせられるように努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	△		サービスをつないでいく際に、相談支援員を軸に、支援会議を行い、情報の共有や提供の場を設けて、引継ぎをおこなうようにしている。	会議がなされない場合は、書面で情報を共有できるように作成しているが、本人のことがより分かりやすく伝えることができるツールがあるか、再検討しながら取り組んでいく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	△		地域の主催する研修会への参加をおこない、取り組みや福祉の状況を確認し合う機会を作っている。	現状の機会に満足せず、他の事業所等との連携を図って、質の向上を検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	△		外出や行事に地域の児童が参加できる機会を設けて、交流を持てるように取り組んでいる。	今後も、地域の児童の参加できる機会を提供できるように、企画を考えて発信していきけるようにする。

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	△		参加を積極的に出来ているわけではないが、支援会議の中で、相談支援員や他事業所を巻き込んで、児童情報の共有や検討会を開いて考える場を持つようにしている。	情報の共有が密にできるように、会議の場を対面だけでなく、オンラインで取り組む機会を設けるなど、回数を増やしていくことも検討していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		子どもの成長や取り組み内容について、職員間で話合うようにしています。複数名の職員が関わる児童については事業所内でノートを活用し、発達状況や取り組み内容について共有し、対応を一貫できるようにしています。	保護者からも職員からも、わからない、という回答があった事実を重く受け止めております。こどもの発達状況や課題について、ビジネスチャットも活用しながら全員で共有し、保護者へもお伝えできるようにします。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	△		ご家族の事情や児童の発達、特性に合わせて、ご家庭でできる取り組みを提案したり一緒に考えたりするようにしています。	児童一人ひとり特性や発達が異なるため、一概にペアレント・トレーニングや研修等が難しい現状です。ですが、特性や発達についてのご説明はできるとしますので、職員が児童の特性や発達について言語化する機会を作っていきます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約の際に、運営規定や支援プログラム、利用者負担等についてご説明しています。同意を得てから利用を始められるよう徹底しています。	児童発達管理責任者が主に説明をしているので、内容を知らない職員も数名いました。支援内容や運営理念については十分理解しているとは思いますが、運営規定や利用者負担等制度についても理解を深めていけるよう職員教育に努めます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者から様子の聞き取りや、支援計画の達成度合いについて確認を行っています。聞き取りの内容と計画を照らし合わせ、適宜計画の見直しを行っています。聞き取りの中で、保護者の要望やこどもの意向を確認するようにしています。	わからない、という回答があった事実を受け止め、支援計画書の意図を職員へ周知いたします。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		放課後等デイサービス計画について、計画案を職員間で回覧し、意見交換をした上で保護者に説明を行っています。	放課後等デイサービス計画についてわからない職員もいたため、作成者や児童と関りのある職員だけでなく全員で内容を把握できるよう徹底します。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時の会話や連絡ノートで相談にお答えできるようにしています。	新人職員等はすぐにお答えすることが難しいため、保護者からの相談内容を職員間で共有しすぐお返事できるよう体制を整えます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	△		当事業所を利用していた児童の保護者から、「進路・育児等の相談に乗りたい」との提案があり、該当する児童の保護者へご案内をしました。送迎時に利用者本人だけでなく、きょうだい児についての育児等の相談もお聞きするようにしています。	個人情報保護の兼ね合いや、児童の障害特性の配慮の関係で父母の会の開催は難しい現状があります。要望があれば検討します。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		送迎時の会話や連絡ノートで適宜相談にお答えできるようにしています。すぐなお返事が難しい場合はビジネスチャットで相談内容を職員間で共有し、各職員の専門分野から相談内容にお返事できるようにしています。	新人職員等はすぐにお答えすることが難しいため、保護者からの相談内容を職員間で共有しすぐお返事できるよう体制を整えます。また、「相談があった」ということを職員全員で情報共有し、相談のご返答まで確認するようお願いいたします。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月お便りを配布しています。お便りの内容は、緊急連絡先や災害等緊急時の対応、該当月の活動報告の写真、ホームページアドレス等を書いています。ホームページにスタッフブログがあり、そちらでも活動報告の詳細を書いております。	保護者からお便りやホームページのブログがわからないという回答をいただきました。お便りの配布やブログの更新があった場合は配布の際に合わせてご説明するよう職員へ周知します。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		連絡ノートでのやり取りや、毎日活動の終わりに写真付きの活動報告書を保護者へ配布しております。	保護者の回答結果と比較したときに、「できている」と答えた職員の回答数が多く差がある状況でした。職員と保護者の感じ方に差ができていることは重く受け止めています。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		連絡ノートでのやり取りや、毎日活動の終わりに写真付きの活動報告書を保護者へ配布しております。	保護者の回答結果と比較したときに、「できている」と答えた職員の回答数が多く差がある状況でした。職員と保護者の感じ方に差ができていることは重く受け止めています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	△		地域の方のご協力で竹の寄付をいただき、七夕や門松で使わせていただきました。味覚狩り体験等も参加させていただいており、地域の方と交流の機会は設けるよう意識しています。	個人情報保護の兼ね合いや、児童の障害特性の配慮の関係で地域住民の招待は難しいところがあります。味覚狩り等も、地域の方のご都合もあるのですべての児童の参加は難しい現状です。要望があれば検討します。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルは作成し事務所に保管しています。誰でもいつでも確認できるよう、マニュアルの場所を固定化しています。	定期的にマニュアルの場所について職員間で共有します。

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年に2回、非常災害を想定した避難訓練を実施しています。実施後は振り返りを行い、不足していた点はすぐに改善に努めるようしています。	休みや活動の兼ね合いで一部の職員が参加しています。なるべく多くの職員が参加できるよう、日時の調整をいたします。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		てんかん発作の有無や病歴・手術歴、必要な配慮等を契約の際に聞き取りしています。てんかん発作は本年度外部研修に参加し、対応について理解を深めることができました。	てんかん発作があった際の対応方法を適宜職員間で情報共有します。緊急連絡先や対応マニュアルの所在を再度共有します。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		児童ひとりひとりのアレルギーの有無や食事方法、偏食の有無などを聞き取りし記録しています。児童発達支援は間食等の提供をしていますが、イベントの際は票品でお渡しすることがありますが、アレルギーフリーのお菓子を提供するようにしています。	開設当時から保護者からのご要望も特にないため、医師の指示書はいただいていません。保護者の要望があったときはお預かりし、保管するようにいたします。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画をもとに訓練を実施しています。実施後は振り返りを行い、不足していた点はすぐに改善に努めるようしています。	休みや活動の兼ね合いで一部の職員が参加しています。なるべく多くの職員が参加できるよう、日時の調整をいたします。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		毎月配布しているお便りで、児童の体調不良や災害時における対応を保護者へお伝えしています。	感染症の流行時期等、適宜職員へ発信し対応を統一できるようにします。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ビジネスチャットを活用し、ヒヤリハットがあった場合はすぐに共有できるようにしています。ヒヤリハット報告書で、再発防止策を検討しています。	高い評価でした。現状の形式を継続しながら、再発防止に向けて職員間で意見交換する機会を今後も設けます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		施設内で年1回以上虐待防止研修を行っています。施設外の虐待防止研修についても参加を心がけています。虐待が発生しないよう、職員間でのコミュニケーションや支援の相談等を積極的にを行っています。	高い評価でした。今後も虐待防止に努めます。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		職員間で事前に共有したうえで災害時等緊急時における身体拘束について、適宜説明するようにしています。	高い評価でした。現状の形式を継続しながら、誰でも保護者へわかりやすく説明できるよう研鑽します。